

## フォーティネット躍進の秘密に迫る 独自OSと独自ASICでセキュリティを強固に

ネットワークの世界で最も成長が著しいのは、セキュリティ市場だろう。その中でも、飛躍的な成長を遂げている企業がある。それが米国フォーティネットだ。同社のマーケティング担当副社長、リチャード・ケガン氏に躍進の理由を聞いた。

——フォーティネットとはどんな会社なのか。

**ケガン** ネットスクリーン・テクノロジーズの創設者であるケン・ジー氏によって2000年10月に設立された新しい会社だ。米国のほか、世界の14箇国で事業を展開している。これまでビジネスは順調に拡大してきており、2003年の売り上げは前年に比べ10倍に成長した。

——会社設立の経緯を教えてください。

**ケガン** セキュリティ侵害の手口は、時代とともに変化してきている。1980年代から1990年代前半までは、メインフレームの攻撃による不正侵入が多かった。侵入を試みるクラッカーは情報を引き出すことが狙いであり、官公庁や金融機関などが攻撃対象となることが多かった。そこで、ファイアウォールやVPN、IDS (Intrusion Detection System) などの製品が登場したわけだ。

しかし、1990年代中頃から、これらのセキュリティテクノロジーだけでは防衛できないコンテンツベースの攻撃が増えてきた。例えば、ウイルス、ワーム、スパムメールなどである。これらの攻撃は、特定の企業やユーザーをのらしたもではなく、不特定多数に被害を及ぼす。しかも、発生するとみずから増殖し、急速に世界中にまん延するのが特徴だ。

現在、ホストベースのアンチウイルス製品や

コンテンツフィルタなどが提供されているが、完全に対処できていないと言える。このような現状を打開することが、われわれの使命である。

——主力製品「FortiGate AntiVirus Firewall II」は、他社製品に比べてどのような特徴があるのか。

**ケガン** コンテンツベースの攻撃を防御するためにわれわれが開発したのが、「FortiGate AntiVirus Firewall」だ。この製品の最大の特徴は、コンテンツベースの攻撃をネットワーク上でブロックするために最適化した独自CPU「FortiASIC Content Processor」と独自OS「FortiOS」を搭載しているところにある。これらを開発には1年半を要した。汎用のOSとCPUで開発すれば開発コストを削減、開発期間も短縮できたが、そのぶんセキュリティが弱いになってしまう。OS自体にセキュリティホールが発見される可能性があるからだ。

また市場には、PC上で稼働するソフトウェアベースのアンチウイルス製品も存在するが、それらのほとんどは電子メールをスキャンする目的で設計されているため、Webトラフィックをリアルタイムで処理するには、十分なパフォーマンスが発揮できないという問題がある。

FortiGate AntiVirus Firewallは、ファイアウォール、アンチウイルス、コンテンツフィルタ、侵入検知・阻止、VPN、トラフィックレーティングといった包括的なセキュリティ機能を1つの筐体で提供可能であり、現在までに世界で4万台を出荷している。

——製品ラインアップを教えてください。



A「FortiGate AntiVirus Firewall II」は、無線LANのアクセスポイントにコンテンツ保護機能を統合した製品であり、IEEE 802.11bに対応している

**ケガン** FortiGate AntiVirus Firewallは、ネットワークのエッジにおいて攻撃を阻止するための製品であり、SOHO/小規模拠点向けからキャリアクラスの製品まで取りそろえている。それらはすべて同じアーキテクチャに基づいて設計されているのも特徴だ。また、さまざまな無線LANに対応した「FortiGate WiFi-60」を販売開始した。これはコンテンツ保護機能を搭載したアクセスポイントであり、IEEE 802.11b/gに対応している。

このほかにも、複数のFortiGate AntiVirus Firewallを統合管理するための「FortiManager」、分散配置したFortiGate AntiVirus Firewallからリアルタイムにログデータを収集・分析することが可能な「FortiLog」、在宅勤務者、モバイルワーカー、提携企業などから社内のネットワークリソースへの安全なリモートアクセスを提供するための「FortiClient Host Security」を提供している。もちろん、24時間体制のレスポンスセンターも完備しており、常に最新の情報を提供できるようになっている。

(NETWORKWORLD編集部)